

特集

# 松浦の夏の思い出

この夏、夏祭りや球技大会など、子どもたちをはじめ、地域住民が参加したたくさんイベントが市内各地域で開催されました。これらのイベントは、それぞれの地域が地域住民の親ほくやまちおこしなどを目的に開催されており、子どもたちにとっても夏の思い出となりました。



▲疫神社夏祭り今福花火大会 (今福町)



▲青年団花火大会 (鷹島町)



▲子ども会地区対抗球技大会 (鷹島町)

**【疫神社夏祭り今福花火大会】7月31日**  
同夏祭りは、松浦商工会議所今福支部青年部が地域を元気付けようと平成12年度から毎年7月の最終土曜日に開催しています。

夕方からはステージプログラムが行われ、「今福P-1グランプリ」に市内の一芸自慢が出場。7組の出場者が歌や手品などを披露し、ダンスを披露した志佐町の下道冬弥君(小5)と美宙ちゃん(小2)の兄妹がグランプリに輝きました。

そのほか、YOSAKOI踊りや太鼓の競演、平戸神楽奉納が行われ、ラムネの早飲みには飛び入り参加もあるなど、観客からはたくさん笑いと拍手が送られていました。フィナーレに防波堤から約1,200発の花火が打ち上げられ祭りに花を添えました。

**【子ども会地区対抗球技大会】8月1日**  
同球技大会は、鷹島地区青少年健全育成会が鷹島スポーツ・文化交流センターと鷹島総合運動公園グラウンドで開催しました。

保護者、地域の人の応援を背に児童、生徒が日ごろの練習の成果を発揮し熱戦を繰り広げました。結果は次の通りです。

- 小学生ドッチボール
- ①三里 ②殿ノ浦A ③阿翁浦B
- 中学生ミニバレーボール
- ①阿翁浦バリバリチーム ②三里
- ③阿翁浦そこそこチーム

**【青年団花火大会】8月12日**  
同花火大会は、20年以上の歴史を持ち、鷹島町青年団(沖野裕团长)が毎年この日に鷹島総合運動公園で開催しているものです。

この日は、露店が並ぶ中、鷹島保育園の園児が踊りなどを披露し、約500発の花火が打ち上げられ祭りを盛り上げました。

**【ふくしま夏祭り】8月14日**  
同夏祭りは30年以上の歴史がありました。福鷹商工会青年部福島支部の人手不足により、ここ2年間は民間の実行委員会が「盆フェスタ」として開催していました。

今年3年ぶりに同支部の主催で「ふくしま夏祭り」が復活。この日はビンゴゲーム、よさこい、ラムネの早飲み競争、肥前福島玄蕃太鼓などが行われ、市内外から多くの人が詰め掛けました。

三枝松明典支部長は「祭りを続けてくれた実行委員会の方々に大変感謝しています。地域の元気を盛り上げるため、自分たちでこの祭りを復活させようと企画しました。準備期間が短く十分な準備はできませんでしたが今年たくさんの方々に来ていただきました。来年度以降も続けていけるよう頑張りたいですね」と話していました。





▲ふくしま夏祭り（福島町）

◀精霊流しと花火大会（志佐町）



▲千燈籠奉納相撲大会（御厨町）



▲牟田ジャンガラ（星鹿町）



▲星鹿ジャンガラ（星鹿町）



三枝松明典支部長

【星鹿ジャンガラ・牟田ジャンガラ】  
8月15日

星鹿町星鹿、牟田の両地区で、盆行事の「ジャンガラ」が行われ、地区住民が豊作や豊漁、無病息災などを祈願しました。

星鹿地区の「星鹿ジャンガラ」では、住民や帰省した親子など約40人が地区一帯を練り歩き、僧の墓とされる石塚を長さ約20<sup>メートル</sup>の「大のぼり」や子ども用の「小のぼり」で叩いたり、浄土寺境内では「ナムム、ホーリ、ホッポンジャ」「ホイホイホイ」と掛け声を掛けながらのぼりを地面に打ち付けたりしながら、豊漁や無病息災などを祈願しました。

牟田地区の「牟田ジャンガラ」では地元住民など約40人が参加。「御厨徳」の墓とされる場所で、子どもたちのぼりで墓を突いて豊作や無病息災などを祈願しました。

【精霊流しと花火大会】 8月15日

志佐町で毎年恒例の精霊流しと納涼花火大会が、志佐川河口で行われました。

この日は、夕方から志佐商工振興会主催による大抽選会が松浦商工会議所前で行われ、その後、わらや木で作られ、金紙・銀紙・灯ろうなどで飾られた多くの精霊船が、松浦太鼓の先導により松浦駅前から志佐川河口までの商店街を練り歩きました。精霊船は志佐川に浮かべられ、約1,500発の花火とともに見送りを受けて流されました。

【千燈籠奉納相撲大会】 8月17日

同大会は、郭公尾地区（堤英雄区長）の伝統行事で、地域住民の親ぼくと子どもたちの健全育成を願って毎年この日、地区内にある御堂様前広場で行われています。

この日は、土俵上で地元の園児や小学生約10人の豆力士が熱の入った取組を展開。途中大人も飛び入りで相撲を取り会場を沸かせました。

取組が終わると子どもたちや観客に、1年間の健康を願って、地区住民の手で作られた「力飯ちからめし」と呼ばれる大きなおむすびが振る舞われました。

それぞれの地域で行われるイベントは地域住民の結束力や活力を生み、子どもたちにも郷土愛を育ませています。また、地域の若者がその地域のイベントに参加することでその伝統や役割を理解し、次の世代へと継承しているのです。

特集 松浦の夏の思い出—終わり